### 和歌山大学との連携事業 課題案 概要

課題(案) 『「調べる」に着目した新観光モデルの検討・検証~わかやマイクロツーリズム「ご近所観光の楽しみ方」の作成~』

背景

ポストコロナ社会では、市外観光誘客が困難であっても、市内の観光消費を促す仕組みが必要。

## 需要回復は近場から

回復は市内・県内→県外→海外

### まず市民による市内観光 「マイクロツーリズム」

- ① 自宅から1時間以内の場所
- ② 3密・ウィルス拡散防止が前提
- ③ 地元・地域を観光する

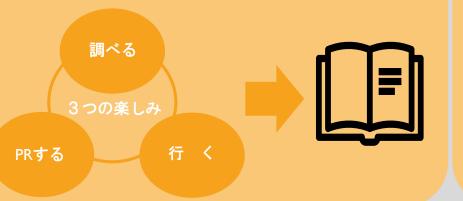
# 新しい「楽しさ」を発信

「行く・食べる・見る・体験する | + a

### 「調べる |楽しさを加える

「どんな行先があるか」 「行った先でどう楽しむかし

概要 本市と和大で、「観光の『調べる』・『行く』・『PRする』の楽しさを示した冊子」を 作成。モニターの使用を通して効果検証。



- 効果 ①新たな楽しさ「調べる」の提案で需要喚起。
  - ②市民にPRされる。市がPRする。
  - ③観光消費回復に貢献。同様事態発生時の打撃抑制に寄与。



# スケジュール (仮)

6月・7月・8月

①「ご近所観光の楽し み方しの作成

9月・10月

②モニター使用実験・ アンケート検証

11月・12月

③内容の修正 ④市民向け配布開始

# 1月·2月·3月

⑤効果測定・魅力発見 ⑥市のPR資源を同定

### R3年度

使用者の投稿が閲覧でき次の 観光につながる)

> 事業継続 ⑦魅力の整理・活用 (例:マップ作製, 旅行会社への情報提供)

# 大学の成果・役割

知見の社会実装で地域課題の解決に貢献 (紀伊半島価値共創基幹の理念の達成)

- → 「調べる楽しみ」に知見を活用(目的地候補の調べ方、目的地での楽しみ方 など)
- → 学術的見地からのアンケートの作成 ・ 結果分析(経済効果など)